



今、ボランティアセンター担当者にとって大切なコーディネート力。企業との連携、福祉教育の推進、そして災害ボランティアなど、地域の課題に協働で取り組むため、コーディネートが重要になっています。ボランティアセンター担当者が押さえるべきコーディネートのポイントを連載で紹介いたします。

NPO法人 日本ボランティアコーディネーター協会  
事務局長

ことり 麻理子 さん

2005年4月から、日本ボランティアコーディネーター協会(JVCA)事務局として、市民参加を支えるボランティアコーディネーターのネットワークづくりをめざし、人材養成や調査研究、啓発活動を進めている。

東京都社協 東京ボランティアセンター勤務時には、市民からのボランティア相談や地区ボランティア活動・企業の社会貢献活動などを推進。東京都北区ボランティアセンター出向時には、地域福祉活動計画策定にも参加。

## 第12回 いよいよ最終回！ 学びと実践の好循環をつくろう

本会では2021年2月末に「市民の参加と協働を進める多様なコーディネーション実践研究集会」(長い!)を開催しました。テーマは【越境×対話×共創】。異なる分野・属性の人(団体)が出会い、話し合い、共に創り出すことで、モチベーションとスキルアップにつなげることを期待した企画です。

最終日に開催した分科会は、企画当初から「動詞」を使ってコーディネーションに大切な視点とスキルを習得することを狙いに、【さそう】【まぜる】【ひきだす】【つくる】【きめる】というワードに沿ったプログラムを組み立てました。ここでは、これらの5つの分科会のエッセンスを紹介し、コーディネーション力を磨くための学びの場づくりのヒントとして役立てていただきたいと思います。

### 1. さそう～

#### リクルート大作戦

参加や協働の入口をどのようにデザインしていますか？ 活動へ誘うにあたっては入口のリクルート計画と実践が重要になります。リクルート上手になるためにはボランティア募集を始める前の準備作業がキモ。計画段階で「ボランティア像を明確にする(来てほしい人物像を具体的に定義)」「魅力的なプログラムをつくる」「居心地の良さ、活動環境を整備する」3点を意識してボランティア受入れ計画を作成します。

この分科会では前掲した3つのポイントに沿った実践事例を紹介し、後半はクロストークを通して、疑問点を聞き出したり、事例を語り合ったりすることで、誘いをかけるターゲットの定め方や具体的な誘い方が共有できました。

### 2. まぜる～

#### 魅惑のトッピングにチャレンジ

分野の壁を超えた協働を実現するためには、お互いの共通点を見出し、相違点を尊重し合う関係を築くことが

必要です。そのためには交流と対話をていねいに積み上げること。分科会では指定登壇者から5分程度のショートストーリーを語っていただき、これに他分野の登壇者が接点や乗っかりどころをかぶせていきます。

その後の「あなたの立場から何がトッピングできそうですか」との問いを受けて参加者同士の対話が始まります。さらに、コーディネーターとして「まぜる」をどこまで意識するかを話し合い、各自で書き出したキーワードをもとにそのココロを確認し合いました。

### 3. ひきだす～

#### 縁(エン)パワメント

何かを始めたり、続けたりするには一人では難しいという考えのもと、エンパワメントについて考えました。遊び心満載！ 多彩な実践を試している講師の話をはさみながら、問いを一つ、答えはそれぞれ！ これをグーグルのJamboard(ジャムボード)の付箋機能を使って出し合いました。

「Q. エンパワメントをあなたなりの言葉に置き換えると?」(“元氣”は禁句)と最初の問い、そして、「Q. そういう状態にするためにどんなことしてますか」と続きます。チカラは引き出すものでなく、関係性のなかから湧き出て、気がついたら元氣になっている。「応え」が人を勇気づける、ということでリアクションする練習にもなった分科会でした。

### 4. つくる～

#### プログラム開発力の向上

前年踏襲の事業ばかりしていると時代に合わなくなるばかりか、組織やチームはマンネリ化し、疲弊していきます。分科会では、ある中山間地に位置する市社協がいま開発している攻めの事業をもとに、雑談のなかで聞いた一法人の困りごとに端を発し、周囲か

ら情報を集め、これはニーズがあるという仮説から本格的な調査に入り、形にしていくプロセスを紹介。

後半は聞き手のコーディネーターが以前作成した<魔法のシート>を今どき風にバージョンアップして提案し、これをもとにしたフレームワークを進めました。「拡大・縮小」「複合化・分離」「新技術の導入」という3つの視点を使った企画の整理に頭を悩ましながらプログラムづくりを経験しました。

### 5. きめる～

#### みんなで考える合意形成

みんなで議論して、みんなで決める合意形成が理想。しかし、対話を通じての合意形成はそれほど単純で、容易なものではありません。しかもオンラインによることが増えています。合意とは？ 講師曰く「そこにいる皆がそうだねと思えること」。オンラインでの合意形成に使えるツールも体験。

今回は「東京オリンピック開催についてどう思いますか」というテーマを題材に合意づくりを練習しました。ポイントとして、発言を可視化し全体を把握しやすくする。違う意見こそ丁寧に聞くとそこから合意形成の糸口が見えてくる。意見の重なり、共通する点を見つけて声に出すことが大事、そして結論としては「問いの設定が大切だ」ということを学びました。



もうすぐ新年度、コーディネーターの力量を上げるチャンスです。オンラインならば場所や距離も自由自在。上半期のうちにぜひとも学びの場を一緒に仕掛けてみませんか。